

2014年度 早稲田大学大学院法務研究科  
法学既修者試験 論述試験  
民 法  
( 問 題 )

---

問題1 (75点)

Aは日本製の乗用車甲を所有していたが、自動車販売業者Bの営業店舗で展示されていたイタリア製の中古車乙を気に入り、Bから代理権限を与えられていたBの従業員Cとの間で、乙の購入のための契約交渉を開始した。2013年7月10日、A・B間において売買契約が締結された。この契約において、乙の売買価格は350万円であるが、Bは甲を50万円で下取りし、Aが実際にBに支払うべき代金額は300万円とすること、乙の引渡しは同年8月20日にBの営業店舗で行われること、Aは乙の引渡しを受けるのと引換えに代金300万円を支払い、甲をBに引き渡すことが合意された。

以上の事実関係を前提として、(1)および(2)に解答しなさい。なお、(1)と(2)は独立した問いである。

(1) 乙は引渡しの当日までBの営業店舗において保管されることとなっていたが、2013年8月10日の深夜に、何者かがBの営業店舗に侵入し、乙を盗み出した。履行期日が到来しても、乙の所在は不明のままである。この場合、A・B間の法律関係はどうなるか。(35点)

(2) 乙はもともとDの所有する車であったが、Dが乙を運転中に他の車に追突され、この事故により乙の後部に損傷が生じた。BはDから乙をその状態で買い受け、乙の損傷部分を完全に修理した。この修理により、事故による損傷の影響は除去され、乙の走行性能にも問題はなかった。しかし、乙が事故車であることにより、その市場価格は250万円程度となっている。

Cは、乙が事故車であり、この事故歴によって乙の市場価格が低下していることを認識しつつ、乙には事故歴がないことをAに伝え、Aはこれを前提として売買契約を締結した。

Cの説明が虚偽であったことを後に知ったAは、Bに対して、どのような法的根拠に基づいて、どのような権利を行使することができるか。(40点)

問題2 (75点)

A男は1983年にB女と婚姻し、1985年にBとの間に長男Cが生まれている。Aは、小規模の出版会社Dを個人的に経営していた。Dにおいては、Aが唯一の代表取締役を務めており、AはDにとって余人をもって代えられない存在であった。Aは、1995年頃にBと事実上の離婚状態となり、その後、2002年頃にE女と親密な関係になって10年以上にわたりEと事実上の夫婦同様の関係で暮らしてきた。

2013 年 1 月、A が青信号で横断歩道を渡ろうとしたところ、F の運転する車が F の前方不注意により、赤信号であることに気づかずに横断歩道に突っ込み、A をはねた。

以上の事実関係を前提として、(1) および (2) に解答しなさい。なお、(1) と (2) は独立した問いである。また、自動車の運行供用者責任についての検討は不要である。

(1) A は、この交通事故により 6 か月の入院を要する重傷を負い、この間、D の営業に携わることができず、D の営業利益に多大な損失が生じた。この場合に、A、B、C、D、E は、それぞれ F に対してどのような請求をなしうるか。(35 点)

(2) A は、この交通事故により死亡した。この場合に、B、C、D、E は、それぞれ F に対してどのような請求をなしうるか。(40 点)

〔以下余白〕